

# Christmas Concert

フェリス女声合唱団

フェリス短大音楽科

フェリス音楽教室合唱団





■1961年

12月19日=火= 6時半 / 横浜・県立音楽堂  
マネージメント=日本コンサート協会

合 唱: フエリス女声合唱団  
フエリス短大音楽科  
フエリス音楽教室合唱団

指 挥: 三宅洋一郎

独 唱: 三宅春恵・梅原秀次郎

ハーフ: ヨーゼフ・モルナール

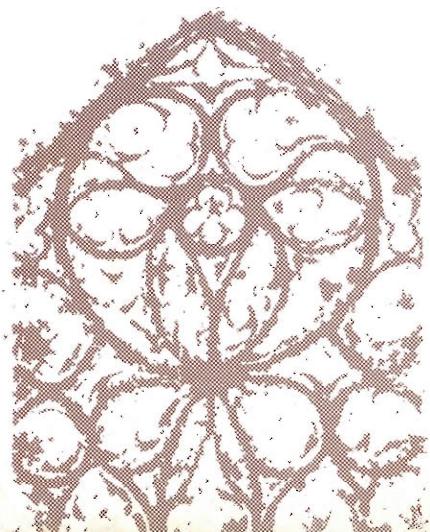
ピアノ: 三浦洋一

オルガン: 島田麗子

打 楽 器: 高橋美智子

照 明: 石井尚郎

曲 目: I マロッテ: 主の祈り  
II ブリッテン: ミサ・ブレヴィス 二調  
III ブリッテン: キャロルの祭典  
IV 矢代秋雄編: クリスマスのうた  
V 中田喜直: 新らしい山河より  
あらし  
晩秋  
冬  
VI 服部公一: どら猫とアンネとマンボ



## ■曲目解説/佐 藤 馨・上 遠 野 優 子 (ただし邦人作品は作曲者自身による)

### ■主の祈り / マロッテ (1895~ )

作曲家アルバート・ヘイ・マロッテは、1895年、アメリカのフィラデルフィアに生れ、少年時代は教会のコーラスボーカルの独唱者がありました。後年、映画でおなじみのウォルト・ディズニーのスタジオで音楽の仕事をうけもち、数年はたらき、「Silly Symphony」や「Ferdinand, the Bull」の作曲もしています。

彼の作品は声楽曲、特に宗教的な曲で成功しており、今日歌われます「主の祈り」は、その代表作品であります。キリスト教徒の日常の禮ともいえる「主の祈り」を、マロッテは、四つの声部を使い華かに情熱的に歌いあげていますが、一般的の宗教曲からうける印象とは違った、甘さと親しみやすさを感じさせる作品です。

### ■ミサ・ブレヴィス / ブリトゥン (1913~ )

現代の作曲家が星のように数ある中でも、ベンジャミン・ブリトゥンはひときわユニークな光彩を放っています。彼の作品を聞くとき、人はまず感覚的な音の美しさに魅きつけられるでしょう。その音楽は、一言の註釈の必要もなく、直截に語りかけます。そして彼の場合、この個性は、国際的、社会的な緊張や混乱によって、むしろ磨かれて洗練されてきたと、考えられます。そういう意味でも、ブリトゥンはもっとも現代的な作曲家の一人といえるかもしれません。

二つの大戦の谷間が作曲者の勉学時期であり、第二次大戦と戦後の混乱期が彼の野心的な活動の場であったことは大きな意味をもっています。この時期のイギリスは他国と同じようにあらゆる社会的経済的な切迫を経験したわけですが、作曲家にとっていうならばそれは、いかに意欲的な大管弦楽曲を作曲しても演奏される可能性はまったくないといった状態でした。作曲家として立とうと決心したブリトゥンに与えられた最初の条件は、少数の演奏者であらゆる音楽的効果をあげなければならないという不利なものでした。しかし、わが国でも上演された彼のオペラ、「ピーター・グライムズ」や「ルクリシアの凌辱」を聴いた人ならば、彼が与えられた制約をかえって有利に利用しているのに気がついた筈です。そこでは声や楽器の小さなアンサンブルが巧みにドラマティックな効果を作りだしていました。

こうした特性は、これから演奏される「小さなミサ」にもはっきり現われています。これは分析すれば現代的なやや難解な技法を多分に含んでいるにかかわらず、みずみずしい感覚に溢れ、巧みなアンサンブルの効果をあげている作品です。1959年、ウエストミンスター寺院のために作曲されたもので、ミサと名付けられてはいますが、イギリスの高教会派のミサが、ローマ・カトリックのミサと違った意味をもっていることは、いうまでもありません。ただし、歌詞はローマ・カトリックのミサ通常文の中からギリシャ語のキリエとラテン語のグローリア、サンクトゥス、アニヌス・ディイがそのまま用いられています。音楽的な意味からいうならば、ローマ・カトリックのミサがグレゴリア聖歌の単旋律様式とパレストリーナの多声部様式を権威としているのに対し、これは現代的な技法のほかに古い時代のイギリス人がそうであったように和声的様式が作品の骨格をなしているといえるでしょう。因みに、わが国における初演は1961年6月2日、指揮三宅洋一郎、オルガン島田麗子、合唱フェリス女声合唱団の諸氏によって行われたものです。

## 1 キリエ

主、あわれみ給え。

キリスト、あわれみ給え。

主、あわれみ給え。

そは主イエス・キリスト、唯一の至高者にてませばなり。

主は聖靈とともに天主なる父の光榮にましまし給うなり。

アーメン

## 2 グローリア

天においては天主に栄えあれ。

地においては善意の人平安あれ。

われら主をたたえ、主をあがめ、

主を拝礼し、主を讃美し奉る。

主の光榮の大いなるがためにつつしみて感謝し奉る。

主なる天主、天の王、全能の父なる天主。

おんひとり子なる主イエス・キリスト。

主なる天主、天主の子羊、父の御子。

主は世の罪を除き給うにより、われらを憐れみ給え。

主は世の罪を除き給うにより、われらの願いを聴き入れ給え。

主は父の右に座し給うにより、われらを憐れみ給え

## 3 サンクトゥス=ベネディクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の天主なる主。

主の栄えは天地にみちみちたり。

いと高きところまでホザンナ。

主のみ名により来れる者は祝せられさせ給え。  
いと高きところまでホザンナ。

## 4 アニユス・ディ

世の罪を除き給う神の子羊、われらを憐れみ給え。

世の罪を除き給う神の子羊、  
われらに平安を与えて給え。

## ■キャロルの祭典 / ブリトウン (1913~ )

キャロルは、よろこびの気持を、歌いながら踊ってあらわす曲で、昔はかなり卑俗な内容のものもあったようですが、今日ではキリスト教とかたくつながり、キャロルといえば、クリスマスを祝う歌として、世界中で愛唱されるものとなっています。

ブリトウンの「キャロルの祭典」は、中世紀から伝えられ、かなり一般化していたキャロルのいくつかと、イギリス国教の主流を占めるアンガリカン教会（わが国の聖公会）の典礼様式をもとにしてつくられた、三部の高声とハープ（またはピアノ）のための作品です。書かれたのは1949年、彼がアメリカから帰る途上の貨物船であったと伝えられています。歌詞には中世英語が使われ、そのいくつかは作者不明であります。全体を構成している十一の小曲は、それぞれことなった色あいで、清楚で美しいクリスマスの雰囲気を盛りあげることでしょう。

## 1. 入 場

祭典は、キリストの降誕を祝い、神をほめ讃えた莊重なラテン語の単旋律聖歌を歌いながら、聖歌隊が教会の側廊から入場してくるところから始まります。

この日 キリスト 生れ給えり。

この日 救い主 あらわれたまえり。

この日 地にはみつかい、歓びうたえり。

天使の長 たからかに よろこべうたえり。

この日 たゞしきひとびと歓びたゞえり。

いと高き神に み榮えあれ。

アレルヤ

よろこべ君よ、ローソクのミサ

よろこべ 君よ、めぐみの女王

よろこべ 富めるもまづしきも

よろこべ ヨウル

よろこべ こゝにつどえる人々

よろこべ みなよろこべ

よろこべ きたるべき新しき年

よろこべ ヨウル

## 2. よろこべヨウル

よろこべ 天の神なる君、

よろこべ ある朝うまれたもう。

よろこべ われらうたわん。

よろこべ ヨウル

よろこべ ステファンとヨハネ

よろこべ 心きよきひとびと、

よろこべ 主に殉ずるトマス、

よろこべ ヨウル

よろこべ よきあたらしき年

よろこべ 十二夜もうるわし

よろこべ なつかしき聖徒ら

よろこべ ヨウル

イエス生まれましぬ。

バラのごとくうるわし、

かくもけだかき花は世にあらじ。

アレルヤ

その小さき姿に、天地の神達たゞよう。

妙なるかな

かくて 我らは見たり、

三つにして 一つなる神

みすがたあらわる

誠いつゝ羊飼いらに み使いは告げぬ。

いと高きところ 神にみ榮えあれ、

われらよろこび

今生れし 聖子を尋ねん、

かえりみじ 世のたのしみ、

いざわれら 進み行かん。

(合 唱)

## 3. うるわしきバラ

#### 4. a. かの幼な子

(アルト独唱)

かの幼な子 むづかりたれば,  
子守唄 み母はうたい  
夢路をば 迦らしめたり。  
そのしらべ すべての歌に  
まさりて ゆかしくひやく,  
うぐいすも きたり歌えど  
おん母の うたぞまされる。  
うぐいすの 声ひくくなり  
うたごえの 消え入りし時,  
うぐいすの うたのみ聴きて  
おん母の うた聞かざりし  
人あらば、そは、誤まれるかな。

#### 5. 四月の露のごとく

(合唱)

われうたう、たぐいなく うるわしおとめ,  
王の王、そのみどり児は,  
いとしづけく、來たり給いぬ。  
おん母の、いますところに  
いとしづけく、來り給いぬ。  
春四月 若草に おく露のごと。  
ひそやかに、み母 よこたわりぬ,  
かのみどり児 ひそやかに、來り給いぬ。  
春四月、若枝に おくつゆのごと。  
かくておとめは ひとりのおん母  
かのおとめこそ、神の母なれ。

#### 4. b. 子守歌

(ソプラノ独唱と合唱)

あとけなき 幼な児イエスよ,  
わが胸は 汝のがゆりかご。  
抱きてぞ 寝かせまつらん,  
夜もすがら、み傍はなれず。  
さはあれど、とこしえに  
たゞえめや みどり児の君。  
うるわしき 歌をもて,  
あらわさん 君のほまれを。  
おんまえに ひざまづき,  
歌わめや パルラロウ。

#### 6. このみどり児

(合唱)

この幼な児、生まれしばかりにて  
悪魔の群れを 敗たんとし給う。  
地獄は潛らきて、震いおののく,  
幼な児は たゞ寒さにふるえしのみ,  
かよわき身に、武具まとわず,  
地獄の門を、おそいたまう。  
涙もて 彼は戦い、勝利を得給う。  
あらわなる 胸はその楯,  
幼き泣き声もて、打ちたゞきたまう。  
涙の目もて、矢のごとく射たまう。  
戦いの旗じるしは寒さと餓え,  
かよわき肉は つわもの駒,

うまごやに 阵地しつらえ,  
とりでには、破れし壁のみ。  
まぶねは壕となり、ほし草は流。  
羊飼いらを 手兵に率いたまう。  
たけき仇、かくて傷つき,  
みつかいの ラッパとどろく。  
わが魂は キリストと 共に戦い  
その作りたまいし、陣を守らん。  
まぶねは、いとよき砦  
みどり児は、汝が守りぞ  
よろこびもて、汝が敵を斃せば,  
この聖き児より、  
まれることなけれ。

## 7. 間奏曲（ハープ独奏）

## 8. 凍れる冬の夜に

（合 唱）

視よ、かよわき幼な児は、凍る冬の夜に,

まぶねの中に、ふるえて居たまう。

いたわし、宿は人満ちて,

このいとけなき巡礼に、ふしど与うる人もなし。

彼はいやしきけものらと、共に臥し,

まぶねに、頭をおおう

厩こそ、その宮居なれ,

まぶねこそ、その玉座なれ,

けものらは、盛儀のたすけ,

木の皿は、宴のうつわとなりぬ。

貧しき人は、宮仕えの礼服をまとう。

王のみづから、天より降り給えば,

この盛儀、天よりよみさる。

よろこびて、来れ、キリストの僕よ,

したがえよ、汝が王の、心ひくぎに,

かの盛儀、天より、もたらされし故に。

## 9. 春への頌歌

（二重唱）

子鹿はとび跳ね 小鳥はうたう,  
きくもたのしい 春のしらべを。  
こひつじたちは 谷間にあそび,  
麦は萌え出で、父なる神の  
はぐくみ給う ものはうるわし。  
われらはつなに ほめつゝうたう。  
めぐみの神に みさかえあれと。

## 10. めぐみ多き神よ

（合 唱）

めぐみの神よ,  
アダムは閉じこめられたり。  
四千年の間、長しとも思はず。  
すべては たゞ一つのリンゴのため,  
彼のとりし リンゴのため,  
みつかい そを知りて  
リンゴはとられしと 書きしるしぬ。  
もし、かのリンゴ、とられざりやば,  
おん母は聖母に、ならざりしならん。  
リンゴのとられし時こそ  
さいわいの時なれ。  
さればわれら、たゞえうたわん,  
めぐみの神よ。

## 11. 退 場

祭典は終りました。聖歌隊はふたたび入場のときと  
同じ莊重な聖歌をうたいながら退場して行きます。ア  
レルヤ、アレルヤ……,  
●以上訳詩・萩原博子

## ■「クリスマス・キャロル集」について／矢代秋雄

クリスマスというのは、キリスト教の伝統の有無にかかわらず、どうして、こう享楽的になりやすいのだろう。日本の盛り場の醜悪な狂態は言わずもがな、全く以て論外であるが、それじゃ、外国では皆が皆、その夜は敬虔につつましく、戦前の紀元節みたいにカシコまってお禱りでもしているかというと、どういたしまして、街は夜明けまでにぎやかだし、家々の窓あかりも、いつになんでも消えず、談笑が洩れてくるのである。パリでの話だが、ビラを四つ辻で渡されたが、それには「クリスマスはオモチャ屋の祭典ではない。本来のあるべき姿にもどそう」などと書いてあるなど、日本とあまり変わらないようだ。

それがあらぬか、各国のクリスマスキャロルには、民俗舞曲調のものが案外に多い。恐らく、ヨーロッパの農民たちは、こういったキャロルを合唱しながら、ポルカやマズルカに興じ、クリスマスの夜の更けるのを忘れたことだろう。

今度私が編曲した「キャロル集」は、オーソドックスなもの他に、あまり知られていないものでしかも宗教的雰囲気が少く、舞曲調のものを数曲加え、変化をつけてみた。

曲は次のとおりである。

1. もろびとこぞりて（新讃美歌112）
2. うたいましょう、ノエルのうた（フランス）
3. 野に伏す牧人（ハンガリー）
4. 羊飼の歌——ポルカ（ドイツ）
5. 神のお子のイエスさま（旧讃美歌）
6. うれしいクリスマス
7. はやくいこうよ、羊をつれて——マヅルカ
8. パタパン（イギリス）
9. きよしこのよる（新讃美歌109）
10. ああベツレヘムよ（同115）
11. 牧人ひつじを（同103）
12. アレルヤ（グレゴリアン）

## ■「新しい山河」について／中田喜直

この作品は、今年秋の芸術祭参加作品として、NHKの依嘱により作曲し、11月22日に、フェリス女声合唱団、中山悌一、NHK室内管絃楽団、指揮若杉弘の演奏で初演されました。曲は全部で八章に分れ、全曲演奏すると、32、3分かかりますが、本日はその中の三章をピアノとハープの伴奏で演奏します。詩は、日本の自然の美しさを、四季の移り変りによって、現代の感覚でとらえ、うたったもので、序曲——春から初夏へ、秋から冬までに分かれています。この曲は詩人と作曲者が十分打合せをした後、曲を先に書き、後で詩をつけ、それを、調整して完成したものです。

### 「新しい山河」より

断水 停電  
深尾須磨子 詩 あたりはくらやみ

あらし

ろうそくの明りをたよりにして

風だ

ふるえている

風速三十メートルの

こわい こわい こわい

すごい ものすごい台風だ

こわい こわい 気持がわるい

それが ぐんぐん

こちらに向って来るので

あらしがけろりとおさまったその後は

ああ ああ ああ ああ

さあ たいへん さあ たいへん

仲間をあつめて

生けがきはもみくちゃで

ししふんじんの勢で進んでくるのか

大きなさくらの木も

それともくるりと進路を変えるか

根こそぎたおされている

なんともかんとも分らない

あたりはさんざん

どうぞ それでおくれよ お願いた

見るかげもなく荒れはてゝいる

だんだん烈しくなっていく雨風

それでもいのちは無事だった

ダッ ダッ ダッ ダッ

やれ のがれたよ 助かった

のしかかり 荒れ狂う雨と風と

もう大丈夫

ソレ 風玉 ソレ 雨戸が飛ぶ

台風はオホツク海へ去った

晚 秋

あゝ

秋はゆく

きりの中に落葉ふらせて

西の空に燃える夕日のばらよ

燃えてきえるばらよ

五月のばらよ

落葉をふめば身にしむ

やがて落葉になる人のすがたよ

ああ ああ ああ

おそ秋の夕ぐれ

冬

たき火がぱちぱちはじける冬に

冬だ

たき火をかこめば 火の子の小びとが

元気にぴょん ぴょん 元気にはねるよ

北風ぴゅう ぴゅうあばれる冬だ 冬だ

ああ 木がらし

山から吹くよ

かれ葉がくるくる舞いとぶ冬だ 冬だ

そこらは見るみる

きれいさっぱり

からりと片づいた

ああ いい気持だ

しづかに冬がおちつく

チラチラ雪だ 雪だ

冬の知らせの初雪だ

チラリ 雪 降るよ 雪

積る雪 チラリ チラリ 積る

ヒラリ ヒラリ 踊る

踊る雪の 子ども

寒くないよ 冷たくないよ

雪の山がまねく まねく まねく

雪の山が光る

キラリ キラリ光る

キラリ

■「どら猫とアンネとマンボ」について／服部公一（きたひろじ）

何年か前NHK婦人の時間の後藤春子さんから、お母さんも子供も共に楽しめる曲を………というお話があって、その頃ちょうど作りかけていたのを大急ぎでまとめたのがこの曲の原曲で、今日演奏されるのはその原曲に後から色々手を入れたものです。

「星よすみれよ王子様よ」といったきれいごとのメルヒエンではなく、子供の周りのこのしょっぱい現実の生活を反映した童話といったものが欲しくなり、あの本この本と探し廻ったのでしたが、探しめたが不熱心な故か、なかなかこれといったものが見当りませんでした。そういうしているうちに子供時分に読んだ「シートンの動物記」にヒントを得て、あつかましくも自分ででっちあげたのがこのお話です。この曲は演奏もたいしてむずかしくないし、まあ、気楽に演奏して、気楽に聞いていただくといった軽い意味の曲です。聞き終った後に、ほんのちょっとペースのかけらでも残ったら、まさに望外の幸福というものです。

## どら猫とアンネとマンボ

きたひろし 詞

ボクはネコです  
強いどらネコ  
ここらあたりはなわばりさ,  
どれ一寸ひとまわり,  
ガードの下は乞食のすみか  
ここはちょっと気をつけないと  
捕えられてたべられちゃう  
タバコやのメガネの婆さん,  
いやな眼つきでボクをみる。  
いたずらネコ どらネコ  
みんなにきらわれる みんなに  
あー しかたがないや。  
皆ながボクをきらいでも  
仲よくしてくれる人もある。  
♪アンネ♪  
アンネは病氣であそべません  
またこんど  
♪ちえっ♪ アンネが病氣じゃつまらない  
たったひとりの仲よしだもん  
そうだ！ のらネコ呼びあつめ  
お部屋のしたで音楽会  
アンネの病氣のお見舞だ  
♪よといでー よといでー よといでー  
とぶの中から えんの下から クロもブチも  
ミケもトラも  
トラもミケもブチもクロも  
みんな早くあつまれ——。  
はじめはクロねこのワルツです。  
すてきな毛なみでしょ ミャオ  
ペルシャの血筋 どらネコ仲間じゃ美人でとおる

わたしは クロネコ  
すてきなスタイル  
ミャオ  
ちょいと自慢  
お化粧ねんいり時間をかけて  
いつもあでやか  
どらネコマンボ ウー  
あき缶たたいてポンゴのかわり  
マンボ マンボ マンボー  
どらネコ暮しは のんきなものさ  
マンボうたって きままな暮し  
マンボ どらネコマンボー マンボー  
マンボ どらネコマンボ  
声をそろえて どらネコマンボ  
マンボ マンボ マンボー  
たのしく歌えば この世はたのし  
みんな愉快にみんなのマンボ  
マンボ マンボ マンボ  
どらネコマンボ どらネコマンボ  
マンボどらネコ ウー  
『ちょっと うるさいわね  
うちのアンネは病氣なのよ  
静かにしてね、  
とてもすてきな  
お見舞なのに  
ほんとにそうだよ  
みんな上手にできたのに なんて訳のわからない  
せっかくボクが考えたのに  
さあさ帰ろう  
帰ろう 帰ろう  
さっさと かーえろ  
さあさ かえーろう さっさと さっさと

■フェリス女声合唱団メンバー

ソプラノⅠ	ソプラノⅡ	アルトⅠ	アルトⅡ
石井美智子	吉田郁子	深海慈子	三宮康子
深山記久子	中田幸子	中村智子	小林操
内田初瀬	遠山洋子	栗原しのぶ	沢崎百合子
成瀬晴代	蟹江令子	中島恭子	大塚明子
屋代桂子	池島雅子	小泉俊子	坂元恵子
水之江寛子	宮地清子	筑紫妙子	稻田史子
黒沢美水	高梨美知子	藤村公子	北村美智江
杉野光子	松本悦子	新倉好子	
鎌田祥子			

# THE POPPY

IMPORTED MEN'S WEAR

歐米紳士物・雑貨

**MOTOMACHI ST., YOKOHAMA**

横浜・元町 TEL 64-0373